

山と花のたより 147号

2012年4月10日 松尾

メールアドレス tadashi6414@smile.ocn.ne.jp

二上山だより



ダンコウバイ 3月

植物名のある写真の撮影は澤木仁さん

4月3日二上山ではダンコウバイが花の盛りを終え、スズシロソウ、センボンヤリ(春花)、ウグイスカグラが今年初めての花をみせていた。

鶯もイカルも一定の場所でテリトリーソングを囀り、「ちょっと来い」と鳴くコジュケイの声もいつもより甲高く聞こえる。そしてかまびすしい鳥たちの声を押しつけるようにキツツキのドラミングが響いてくる。

生きと

し生けるものが

躍動し始めたのだ。

センボンヤリは千本槍。キク科センボンヤリ属。秋に長い花茎の上に冠毛のある実をつけるが、そのつき方が毛槍に似るのでこの名が。秋花は開かないままで結実するという不思議な植物。

スズシロソウはアブラナ科ヤマハタザオ属。花が同じ科の大根(別名すずしろ)に似ているのが名の由来。祐泉寺と馬の背の間に咲いている。



スズシロソウ 3月



千本槍 4月

上の写真は春花

下はミズバショウ

春の花々に感動、そして運転手さんたちに感謝

土庫病院友の会山歩きクラブの例会に参加して

4月1日(日)~2日(月)、同クラブの第15回例会・新潟・角田山登山旅行に参加。早春の可憐な花々を堪能した。

1日、朝6時半土庫病院横の老健施設「ふれあい」前を貸切バス





残雪たっぷりの雪国植物園 ボランティアのガイドに案内してもらって見学。

ガイドさんによると、この植物園は工業団地予定地の売れ残りを里山として残すために市が買い取って、ボランティア団体「平成令終会」によって維持管理していると言う。「令終」とは「よい終わり、立派な死に方」の意の熟語。大正5年に結成された団体で高齢者の皆さんが本当に立派なことをなしている。

この園の「理念」は「自然が主役＝地球の自然を主役とし、力を持ちすぎた人間が脇役に徹し、自然と相談しながら共生の道を歩く」とある。名実共に実に立派な植物園だ。

開花が遅れているそうだが、オオミスミソウ、ショウジョウバカマ、コシノカンアオイ、マンサク、ミズバショウ、ザゼンソウ、ユキツバキなどが花をみせてくれた。園地の池ではクロサンショウウオの卵とヤマアカガエルの卵塊が揺れていた。

この日の宿は角田山山麓に近い岩室温泉ゆもとや。夕食は宴会室で。歓談とカラオケなど楽しい夕べだった。

2日、信じられないほどの快晴。宿の裏山に咲くキクザキイチゲ(キクザキイチリンソウ)の群落を見て、8時15分発。すぐに角田浜海水浴場に到着。トイレとストレッチを済ませて8時40分桜尾根コースの急登に取り付く。すぐに雪割草のオオミスミソウが可愛い花を見せ始める。



キクザキイチゲ

すぐに雪割草のオオミスミソウが可愛い花を見せ始める。

次々と現れる花の群れに歓声があがる。色も形も花卉の紋様も大きさも実に多彩。この変異は一千万年間に亘って自然交配する中で造られてきたとのこと。

深い雪の下で花芽を育て、自らの体温でも雪を溶かし、雪解けと同時にいっせいに花を咲かせる、不思議で小さい花々。ナニワズー

で出発。途中、名神高速道路上での交通・火災事故のため、新潟県長岡市の雪国植物園に到着したのは午後2時過ぎとなった。

ここまでの道中でも激しいみぞれに遭い、この園地も周囲の田畑も雪に覆われている。此处よりも北に在る角田山の積雪状態を気かけながら、全員靴を履き替え



ザゼンソウ





「雪割草」の呼び名には、花への愛情と共に、雪国の人々の、待望する春への思いが籠められているのだろうか。

キクザキイチゲ(白と薄紫)、ショウジョウバカマ(ピンク)、カタクリ、エンレイソウ、ナニワズ(黄色、ジンチョウゲ科の木)などの花をも混じえながら、雪割草の群が続く。

九合目
辺りから

角田山山頂付近に行く は雪を踏んで歩く、慎重に歩を運んで、11時前に角田山山頂着。標高481.7m。記念写真を撮り、休憩もそこそこ下山開始。

下山コースにした浦浜コースも花が続く。こちらの主役はカタクリ、やや小ぶりながら鮮やかなピンクの花びらをそり返えらせて陽光を浴びている。

道端にひっそりと咲くミチノ **群咲くカタクリ** → クエンゴサク、コシノカンアオイ、キクザキイチゲなども楽しい。ゆっくり下って12時40分巻町ふるさと会館前に到着。滑ったり、転んだり

はあったが、いずれも大事に至らず、全員無事下山。

22人の参加者全員が60歳以上。最高年齢82才、平均68.2歳の将に高齢者登山。

帰路、寺泊の魚市場通りで昼食と買い物を済ませて、一路奈良へ。北陸自動車道をひた走るバスの車窓から信越国境の山々が見えた。

妙高も火打も、剣も立山連峰も純白の障壁としてそそり立っている。古来人々が、神々の峰として尊崇してきた高峰たちなのだ。

あの山々が纏っている分厚い冬の装いは、いつ解かれるのだろうか。角田山で満喫してきた春の息吹との落差の大きさに戸惑いすら覚える。



雪国でいち早く春を告げる小さく美しい花たち、春の息吹を有難う。そして2人の運転手さん、遠路の運転有難うございました。

左はミチノクエンゴサク

下と右二枚は オオミスミソウ

